



## レストハウス営業中

旭山記念公園レストハウスは 10 時～17 時まで営業しております。  
コーヒー、焼きそば、フライドポテト、肉まん、唐揚げ串、クッキー、  
ソフトクリームなどをご用意してみなさまのお越しをお待ちしております。



## 「さえずり」

8 月になり、鳥たちの「さえずり」(囀り)もあまり聞かれなくなりました。  
今年も春の野鳥観察会では、鳥たちの「さえずり」に力を入れてきましたが、  
そもそも「さえずり」とは何かを今回はまとめてみました。

### ■「さえずり」は歌

「さえずり」するアオジの雄→



「さえずり」とは、スズメ目の鳥の雄が繁殖期にきれいな声で鳴くことを指します。  
それ以外のコミュニケーションに使う地味な鳴き声を「地鳴き」といい、これは 1 年中聞くことができます。  
英語では「さえずり」を”song”「ソング」(略号 S)、「地鳴き」を”call”「コール」(略号 C)と呼びます。

### ■「さえずり」の意味 主なもの3つ

#### ①雄が雌にあてたラヴソング

雄がペアになりたい雌の前で早い話がかっこいいところを見せるために歌うことが「さえずり」の主な目的。  
「さえずり」の際、多くの鳥では姿の美しさや勇気など、声以外の要素も同時にアピールします。  
また、ペアになれなかった雄が他のペアの雌を「横取り」するために「さえずり」することもあります。

#### ②なわばり主張

ペアになった雄は自らの巣の周りで「さえずり」し、そこより中は自分のなわばりであることを主張します。  
この場合は同じ種の鳥だけではなく他の種に対してもアピールすることになります。

#### ③外敵を引き寄せる

雛が育つと、猛禽などの外敵が巣に近寄らないよう、雄が「さえずり」をして外敵の目を引き寄せます。

### ■ツツドリは「さえずり」しない

「さえずり」について先ほど「スズメ目の鳥」と書きましたが、例えばカッコウ目カッコウ科のツツドリなどスズメ目以外の鳴き声を「さえずり」とはいいません(最近では「さえずり」という表現する人もいますが)。  
旭山でもよく聞かれるツツドリの「ポポッ」という声は単に「鳴き声」といいます。

しかし、ツツドリの鳴き声も繁殖行動(托卵相手を探すなど)に関係しているものであり、繁殖期以外にはその声では鳴かないので、意味としては「さえずり」と同じと見なすことができます。

また、キツツキ科の鳥が木をつつく音のうち冬から春先に派手なつつきかたをする「ドラミング」やフクロウの春の鳴き声も繁殖行動に関するものであり、意味としては「さえずり」と同じことになります。

### ■妙な「さえずり」・・・「ぐぜり」

オオルリやウグイスの巣立ち幼鳥が夏に不完全な「さえずり」声を出したり、冬の間は「さえずり」しないツグミが春先にぐによごによいような不完全な「さえずり」をすることがありますが、これを「ぐぜり」といいます。

8 月はまだ何種かの鳥の「さえずり」を聞くことができますが、そろそろそろ終わり。

しばらくは鳥の「さえずり」を聞くことができない時期になります。

しかし、留鳥のハシブトガラはクリスマスの頃に「さえずり」を開始します、楽しみです。



### ●8 月の旭山野鳥情報

- ・オオルリ幼鳥(右写真上)が木のでっぺんで「ぐぜり」をする姿が見られます。
- ・アオジが「森の家」「ポートランドの森」「ミュンヘンの森」の辺りでよく見られます。
- ・アオジ(右写真下)とホオジロは幼鳥を見ることもできます。
- ・アオバトまだ見られますがなかなか低い場所には降りてきません。
- ・アカゲラはまだ雌雄関係なく頭部が赤い幼鳥が見られます。
- ・8 月中に南に渡っていなくなるセンダイムシクイ、いつまで見られたかを追ってゆきます。



# カルチャーナイト 2016「ウッドカトラリー作製体験会」レポート

7月22日(金)、「カルチャーナイト 2016」一環として

「ウッドカトラリー作製体験会」を行いました。

参加された皆様は、木を角材から切り出す人、スプーン形に予め成形したものを削る人など、思い思いに自分だけの木のスプーンを作り、3時間あっという間に過ぎました。

参加された皆様、講師の浦口護さん、須田精二さん、ありがとうございます。



## 「公園のチョウを訪ねてみよう」レポート

7月31日(日)、「公園のチョウを訪ねてみよう」、長谷川雅広さんを講師にお招きして行いました。

午前中は公園内を歩いて蝶の観察、お目当ての「ゼフィルス」ハヤシドリシジミを確認、他にクジャクチョウ、ヒメキマダラヒカゲ、クロヒカゲ、モンキチョウ、コキバネセセリ等がいました。

昼休みの後は木を使った「エコスタック」作り。

旭山では、園内で繁殖するオオムラサキの食樹であるエゾエノキを何年かにわたって植樹してきましたが、育ちのよい1本の根元に、幼虫が越冬に利用する落ち葉がたまるように木の枠を設けるもの。

くい打ちやねじ留めなど、参加した子どもたちが熱心に取り組んで「エコスタック」ができました。

旭山では今後、チョウと公園の自然の関係を考え、チョウに関するイベントを継続的に行います。

次回は秋に予定していますが、詳細決まりましたらホームページや掲示板などでお知らせします。



## 「さっぽろ生き物さがし 2016」と「定例自然観察会」

札幌市「生物多様性さっぽろ」の一環として、「さっぽろ生き物さがし 2016」プロジェクトが進められています。

これは、一般参加者が森林や草地、水辺などの自然環境の指標となる動植物の一斉調査を行い、報告を受けた市が生き物マップを作成し、札幌の自然環境を調べるものです。

8月の「定例自然観察会」、は「さっぽろ生き物さがし 2016」に協賛し、

手引き書に記載された指標生物探しを中心に行います。

ぜひご参加ください！

指標種のひとつクジャクチョウ

●8月27(土) 9時30分 参加費 100円(保険代) 定員:15名



## 写真で見る旭山ミニ博物誌



ナガボノシロワレモコウ (バラ科)  
数年前にひと株出て1年で見えなくなったものが今年復活しました。

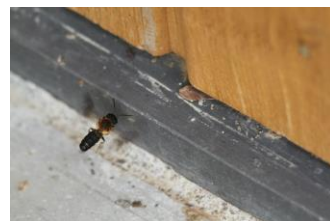


旭山で見られる動植物を写真で紹介する連載コーナー。

ヤナギタンポポ (キク科)  
葉が柳のような形をしているのでこの名がつけられました。



クロハナカミキリ ↑  
「森の家」の前にある丸太に産卵していました。



オオハキリバチ ↑  
大きいハチですが掘もうとしない限りは刺さないらしいです。

## 編集後記

「栗の木デッキ」付近に毎年8月背の高いハンゴンソウの花が咲きます(右写真)。2008年の公園再整備終了までは見られなかったものですが、工事により埋土種子が掘り起こされて出てきた可能性があります。普通種であるハンゴンソウも旭山では稀少種、ぜひご覧ください。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第33号 2016(平成28)年8月6日発行

発行:(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所:〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先 電話 011-200-0311(土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>